

プロダクト・インテリア・建築のユニバーサルデザインに関する研究

◆キーワード
ユニバーサルデザイン

◆産業界の相談に対応できる分野
プロダクト、インテリア、建築、
福祉機器・福祉用具

教育学部 情報文化課程
教授 齋藤 芳徳

TEL 029-228-8316
FAX 029-228-8316
e-mail saiyoshi @ mx. ibaraki. ac. jp



一言
アピール

バリアフリー・デザイン：障がいのある人のアクセスを容易にするデザイン
アダプティブ・デザイン：障がいの種類によるニーズを初めから考慮したデザイン
ライフスパン・デザイン：いかなる年齢層にも世代を超えて使いやすいデザイン

研究概要

建築やプロダクト分野におけるユニバーサルデザイン(UD)をPDCA cycle(plan-do-check-act)を用いて検証とデザインを繰り返し、製品の完成度を高める実践的な研究です。主な事例は、以下のとおりです。

- ①いすのUD—いすや座いすが車いすに変化します。駆動ユニットを外せば、いすや座いすとして再利用できます(図1)。
- ②浴槽のUD—健常者から車いす利用者まで、同じ浴槽で入浴できます(図2)。さらに、ユニットバスのUDに進化しました(図3)。
- ③住宅のUD—モダンなデザインの住宅ですが、伝い歩きや車いすでも使いやすいように配慮しています(図4)。
- ④介護施設のUD—ユニットケアの特別養護老人ホームです。家庭的な雰囲気の中で、馴染みの職員と空間で生活します(図5)。



図1 いすのUD



図2 浴槽のUD



図4 住宅のUD



図3 ユニットバスのUD

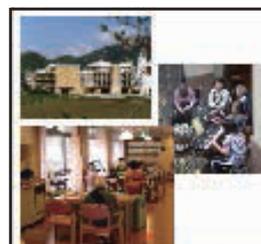


図5 介護施設のUD

何に
使える?

障がいの有無、あらゆる体格、年齢、性別にかかわらず、できる限り最大限、全ての人が利用できる製品・空間・建築づくり